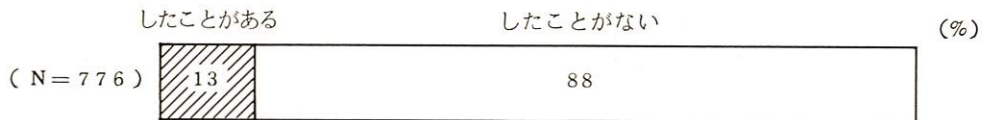


7. ボランティア活動

7-1 ボランティア活動参加の有無

Q 10. お年寄りや心身に障害のある人々のために、地域でボランティア（奉仕）活動が行われていますが、今までに、あなたはボランティア活動に参加したことがありますか。

図 7-1. ボランティア活動参加の有無



ボランティア活動への参加経験度は13%で、市民の8人に1人はボランティア活動の経験がある。

地域別では、あまり大きな差はみられないが、A、Fブロックで15%とやや高くなっている。性・年齢別では、男性の場合、60歳以上に18%と最も高く、20代で9%と低くなっている。女性の場合は、40代で15%と最も高く、20代が7%と最も低く、男女とも若い層の経験度が少なくなっている。

職業別では、事務・技術系勤めに15%とやや高くなっている。

図 7-2. ボランティア活動参加の有無（地域別）

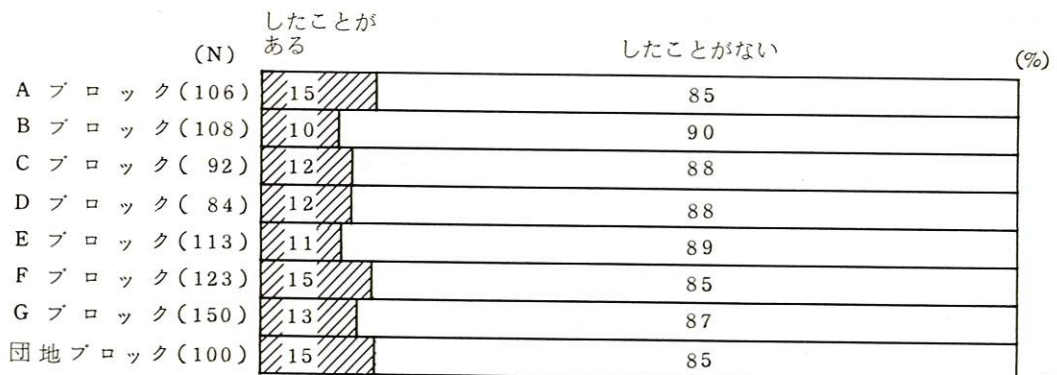


図7-3. ボランティア活動参加の有無 (性・年齢別)

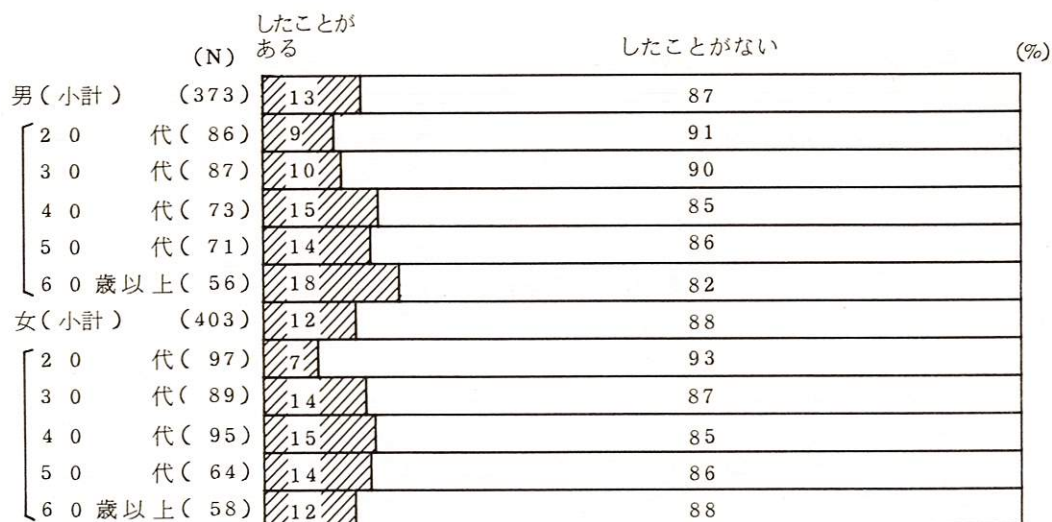
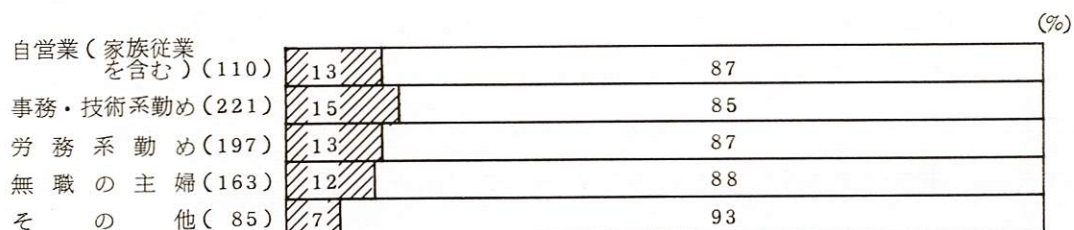


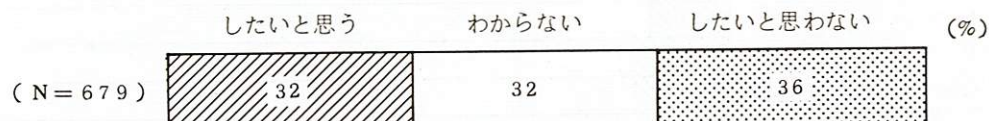
図7-4. " (職業別)



7-2 ボランティア活動への参加意向

10-1. 今後、ボランティア活動をしたいと思いますか。

図7-5. ボランティア活動への参加意向



ボランティア活動の経験がない人に、今後の参加意向を聞いたところ、「したいと思う」人は32%で3人に1人の割合であった。

性・年齢別に参加意向をみると、男性の場合、年齢が高くなるに従い、参加意向も高くなる傾向がみられ、50代(33%)で最も高くなるが、60歳以上(13%)になると少なくなる。女性については、30代(49%)、40代(47%)、50代(46%)の参加意向が高く、20代(33%)、60歳以上(26%)が低くなっている。職業別では、主婦に42%と高くなっている。

図7-6. ボランティア活動への参加意向 (性・年齢別)

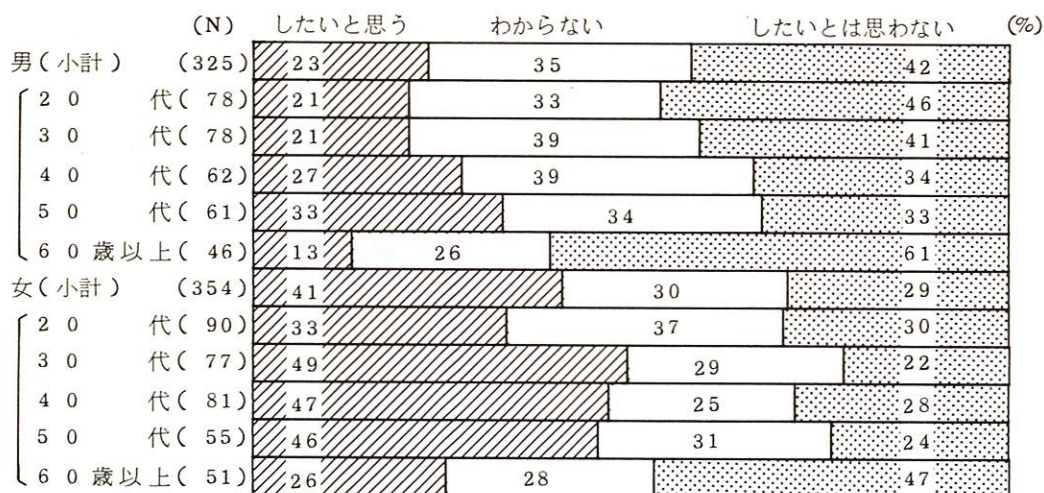
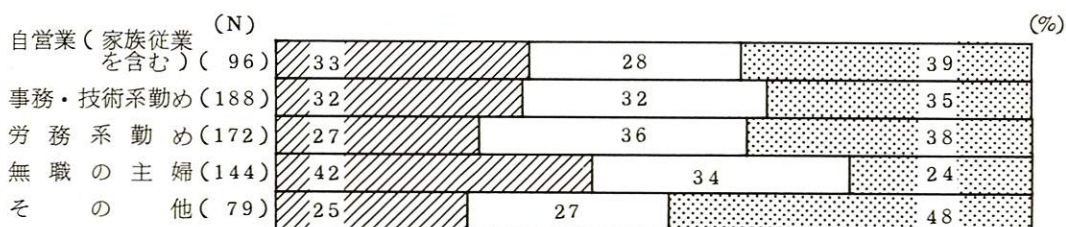


図7-7. " (職業別)

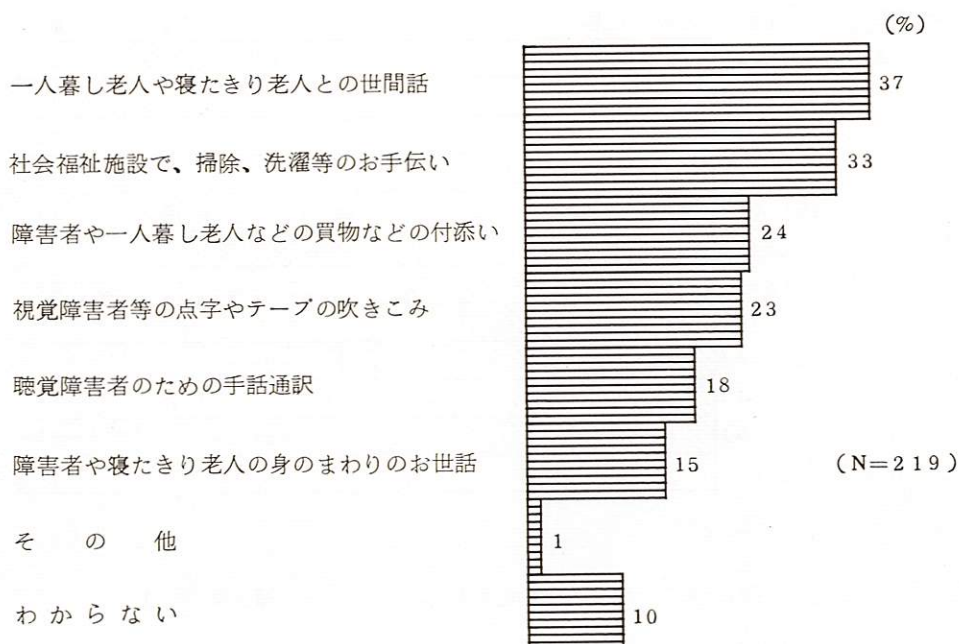


7-3 してみたいボランティア活動

10-2. [カード] [10-1で「したいと思う」と答えた人に]

「したいと思う」という方にお聞きします。今後どのようなボランティア活動をしたいと思
いますか、この中からあげてください。(M.A.)

図7-8. してみたいボランティア活動



ボランティア活動経験がない人で、さらに、今後してみたいと答えた人に、してみたいボランティア活動を聞いた。最も多かったものは、「一人暮らし老人や寝たきり老人との世間話」(37%)で、次いで、「社会福祉施設で、掃除、洗濯等のお手伝い」33%、「障害者や一人暮らし老人などの買物などの付添い」24%、「視覚障害者等の点字やテープの吹きこみ」23%と続いている。

性別では、「聴覚障害者のための手話通訳」以外は女性が男性を上回っており、女性の積極性、活動の多様性を示している。

表7-1. してみたいボランティア活動（性別）

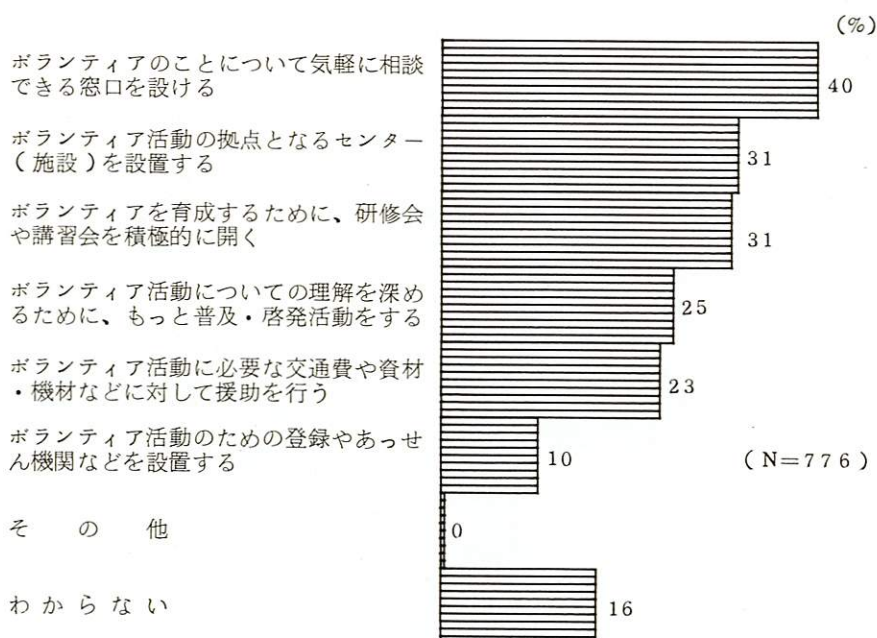
（％）

	一人きり世間暮らし・人寝と	社会、手福掃伝祉除い施等設の	障買添害物い者などの付	視のこみ障一など害ブ者吹き等	障身世害の話し者回りのお	聴た訳覚め障の害手者話の通	そ の 他	わ か ら な い
N = 219	37	33	24	23	15	18	1	10
男（75）	35	24	17	16	9	23	1	13
女（144）	38	38	27	26	17	15	1	8

7-4 ボランティア活動の重点

Q11.〔カード〕 あなたは、ボランティア活動を活発にするためには、市はどのようなことに力を入れればよいとお考えですか。この中から2つだけあげてください。（M.A.）

図7-9. ボランティア活動の重点



ボランティア活動を活発にするために市が力を入れるべきことについては、「ボランティアのことについて気軽に相談できる窓口を設ける」が40%と最も多く、市民は気軽に相談窓口の設置を望んでいる。次いで、「ボランティア活動の拠点となるセンター（施設）を設置する」、「ボランティアを育成するために、研修会や講習会を積極的に開く」31%となっており、ハード面、ソフト面での要望も強い。

性・年齢別での特徴は、「ボランティア活動の拠点となるセンター（施設）を設置する」で男性が女性を大きく上回っていることがあげられ、男性はハード面に対する要望が強く、また、「ボランティア活動に必要な交通費や資材・機材などに対して援助を行う」で男性が女性を上回っており、経済的な面での援助も必要と考えている。一方、女性は「ボランティアのことについて気軽に相談できる窓口を設ける」で男性を上回っており、ソフト面、あるいは心情的な面で、ボランティア活動を活発にしようと考えており、男性と女性の意識に差がみられる。

職業別では、主婦に「ボランティアのことについて気軽に相談できる窓口を設ける」（50%）が、事務・技術系勤めに「ボランティア活動の拠点となるセンター（施設）を設置する」（44%）が、それぞれ高くなっている。

ボランティア経験の有無別では、経験者は「ボランティア活動のための登録やあっせん機関などを設置する」以外は、非経験者を上回っており、ボランティア活動に対して、積極的な考えを持っていることがわかる。

表7-2. ボランティア活動の重点 (性・年齢別)(職業別)(ボランティア経験の有無別)

(%)

		も啓る つ発 と活 普動 及を ・す	研会開 修をく 会積 や極 講的 習に	活なを 動のセ置 のセン 点と1	登ん置 録機する や関る あ等 っを せ設	気きける 軽るに 窓相口 談を設	活交し 動通援 に費助 必等 要に な対	そ の 他	わ か ら な い
N = 776		25	31	31	10	40	23	0	16
男 (小計) (373)		26	29	37	9	36	26	0	16
20代 (86)	20代 (86)	24	24	34	11	37	28	—	17
	30代 (87)	32	31	39	6	36	30	—	12
	40代 (73)	26	22	55	10	33	37	1	6
	50代 (71)	25	35	35	11	38	17	—	16
	60歳以上 (56)	18	32	18	9	36	14	—	32
女 (小計) (403)		23	33	26	11	44	20	1	17
20代 (97)	20代 (97)	33	24	35	14	47	22	—	9
	30代 (89)	27	36	35	14	40	27	—	8
	40代 (95)	18	37	24	14	46	13	—	22
	50代 (64)	19	36	22	6	45	19	3	20
	60歳以上 (58)	16	31	7	5	36	22	—	33
自営業(家族従業員含む) (110)		26	25	26	15	45	25	—	16
事務・技術系勤め (221)		31	30	44	11	36	27	—	8
労務系勤め (197)		19	31	35	7	40	23	1	19
無職の主婦 (163)		24	36	22	10	50	20	1	16
その他 (85)		19	29	18	12	27	18	—	33
したことがある (97)		30	37	34	10	44	27	1	3
したことがない (679)		24	30	31	10	39	23	0	18